

JASIS 2024 見聞録

(Japan Analytical & Scientific Instruments Show)

五感で体感する最先端技術

幕張メッセの巨大な展示ホールに一步足を踏み入れた瞬間に、圧倒される光と熱気を感じました。目の前に広がる光景はまさに科学・分析システムの未来を垣間見る空間でした。2024年9月4日から6日にかけて、幕張メッセ国際展示場にてJASIS 2024が開催されました。「Come Touch JASIS」という、五感でしか得られない情報・学びの場を提供するというコンセプトを掲げ、最新の科学・分析システムが一堂に会しました。本稿では、展示会の様子についてお伝えします（写真1）。



写真1 JASIS 2024 展示会場の様子

数字で見る JASIS の進化

JASIS 2024 の出展社数と小間数は、407社（前年比118%）1214小間（同111%）とコロナ禍からの回復が顕著に見られ、2019年のコロナ前の水準（478社、1423小間）に着実に近づいています。来場者数も、昨年の16115人を大きく上回る21918人（初日7046人、2日目7585人、最終日7287人）となりました。

会場を歩いていると、各ブースで活発な対話が行われている様子が印象的でした。オンライン化が進む中、実機に触れながら数多くの出展社と直接対話できる機会の重要性を改めて感じました。

国際色豊かな展示会

JASIS 2024 では、国際的な参加も目立ちました。会場内では、イギリス国旗を持ってツアーをしているグループや、韓国語をはじめとする様々な言語が飛び交う様子が見られました。これは、JASIS が単なる国内展示会の

枠を超え、グローバルな交流の場としての役割を果たしていることを示しています。海外からの参加者が増えることで、日本だけでなく世界の最新トレンドも直接把握できる機会となっているのではないのでしょうか。同時に、日本の技術力を世界に発信する絶好の機会にもなっていると思います。

注目の新企画

JASIS スクエアの拡大

昨年好評だったJASIS スクエアが今年はさらに拡大されました。特にLabDXゾーンには多くの来場者が集まっていました。ここでは、最新のデジタル技術を活用した研究室の未来像が展示されており、来場者の関心を集めていました。特に印象的だったのは、ロボットによる実験自動化のデモンストレーションです。ロボットが試薬を正確に計量し、サンプルを運ぶ様子は、まるでSF映画のようでした。この技術により、人為的ミスの減少や、研究者の薬品暴露リスクの低減が期待できます。「不慣れな人でも安心して扱える」と思うほど、安全性と精度の向上が図られていました。また、分析機器同士の連携を簡易化する仕組みも注目を集めていました。パラメーターや装置の管理、工程変更が簡単にできるようになり、研究のスピードアップが期待できます。これらの技術により、研究効率が大幅に向上すると感じました（写真2）。



写真2 LabDX の展示の様子

JASIS School

新設されたJASIS Schoolは、業界が直面している人材育成・確保の課題に応える形で企画されました。JASIS Schoolの講演テーマは、過去に「基礎編」「初級編」といった講演が人気を集めていた動向を基に設定され、今年度は、「測定値の信頼性」や「計測の不確かさ」といった分析業界初心者であれば必須となる講演が提供されていました。学会では有料で提供されるような内容が、JASIS 2024では無料で聞けるとあって、立ち見が出るほどの大盛況で、参加者の熱心な様子が印象的でした。

初年度の企画ということもあり、来場者へのアピールを重視した工夫も見られました。通常のセミナーとは異なり、展示会場内で開催したことで、多くの人の目に触れる機会が増えたようです。また、会場の間仕切りを低くすることで、通りかかった人も気軽に覗けるよう工夫がされていました（写真3）。



写真3 JASIS Schoolの様子

スタートアップコーナー

スタートアップ企業向けの新設エリアには10社・団体が参加し、業界のイノベーション促進の場となりました。ここでは、斬新なアイデアや技術が披露され、来場



写真4 スタートアップコーナーの様子

者の注目を集めました。このエリアの設置は、分析・科学機器業界に新しい風を吹き込もうとする試みです。大手企業とスタートアップ企業の交流が生まれることで、オープンイノベーションの促進が期待できます（写真4）。

新しい交流形式「ピッチ・ネットワーキング」

ピッチ・ネットワーキングは、今年新たに導入された業界内の交流を促進する試みです。通常の展示時間終了後、18時から20時にかけて別会場（定員50名、参加費5000円、飲食付）で開催されました。15分のプレゼンテーションが四つ行われた後、さらに詳細な議論や交流ができる場が設けられていました。有料かつ別会場ということで参加者が限られているため、ここだけでしか聞けない話や、より深い議論をすることができ、新しいビジネスチャンスの創出が期待できます。このような「アフターアワー」的交流が、今後の業界発展につながるのではないかと思います。

セミナーと講演の充実

トピックスセミナー

DX関連、先端材料、環境関連、ライフサイエンス、量子、食品から、八つのトピックス、16テーマについて、国内外の産学官から講演者が集まりました。JASISが提供するWebコンテンツであるWebExpoでも情報公開されており、JASISが各分野への高い関心に応じている様子を実感しました。

新技術説明会

昨年の69社261テーマから大幅に増加し、92社312テーマの発表が行われ、対面ならではの熱のこもった発表を聞くことができました。プログラム構成も工夫されており、発表間の15分のインターバルにより、参加者はより多くの発表を効率的に聴講できるようになりました。また同時時間帯の類似テーマの重複を避ける配慮もなされていました。プログラム決定方法も進化しており、かつては発表企業が一堂に会して議論していたものが、現在は過去のデータを基に最適な構成を決定しているそうです。さらに、将来的にはAIを活用したプログラム編成も検討されているそうです。こうした取り組みをお聞きして、継続的により良いものを発信していこうとするJASISの熱意を感じました。

展示の傾向

昨年から引き続き、前処理の自動化やロボットによる実験のオートメーション化の展示が目立ちました。これらの技術は、研究効率の向上だけでなく、24時間稼働の研究環境実現への期待を感じさせるものでした。

また、AIやIoTを活用した分析機器の展示も多く見

られました。これらの技術により、より精密で再現性の高い分析が可能になるとともに、データの統合管理や遠隔操作なども容易になると考えられます。

来場者への配慮

JASIS フードコート

来場者の快適性を高める工夫としてフードコートが設置されていました。会場内にキッチンカーを入れることで、海鮮丼や牛たん丼など多様な食事が提供されており、「海鮮丼がおいしかった!」「温かい食事がうれしい!」など、好評の声を聞くことができました。展示会場はとても広く昼食場所に行くにも一苦労ですので、フードコートにより時間の有効活用ができるようになったと感じました(写真5)。



写真5 フードコートの様子

アンケート・抽選コーナー

来場者の声を集めるため、アンケートコーナーが設置されていました。回答者にはガラガラ抽選でプレゼントが当たるなど、楽しみながら協力できる工夫が施されていました。こうした取り組みが、展示会の改善や来年度の企画につながっているのだと思います(写真6)。



写真6 アンケート会場の様子

オンラインでの情報発信

コロナを経て発展したオンラインによる情報発信もますます活気づいています。JASIS 2024では、7月5日から10月31日までの約4か月間にわたり閲覧可能なオンラインコンテンツJASIS WebExpoを提供しています。昨年までの経験を活かし、オンラインとリアル融合がさらに進んでいるようです。WebExpoの活用により、展示会に直接参加できない方々も最新の情報にアクセスできるようになっており、また、展示会終了後も発表内容を振り返ることができるため、学びの機会が大きく拡大されていると感じました。

JASIS 関西 2025 の開催予定

JASIS 関西 2025が、2025年1月29日から31日にかけてグランキューブ大阪(大阪府立国際会議場)で開催される予定です。隔年での関西地域での開催は、地域の研究機関や企業の最新動向を知ることのできる貴重な機会となるはずですが、大阪・関西万博と同じ年に開催されることで、相乗効果も期待できるかもしれません。

おわりに

JASIS 2024は、コロナ禍を経て得た知見を活かしつつ、リアルな展示会の価値を再確認する場となりました。「人材育成」や「DX」といったキーワードを拡充しながら、分析・科学機器産業の最新動向をまさに五感で体感できる場となっていました。

特に印象的だったのは、デジタル技術の進歩と人材育成の両立を目指す姿勢です。最先端の自動化技術やAIの活用が進む一方で、JASIS Schoolやピッチ・ネットワークなど、人と人のつながりを重視する取り組みも充実していました。これは、技術と人の調和を図りながら業界全体をさらに発展させていく意気込みとを感じました。

今回のJASIS 2025(2025年9月3日(水)~5日(金)開催予定)では、どのような新しい技術や取り組みが見られるか、とても楽しみです。また、JASIS 関西 2025の開催も、業界のさらなる発展につながることを思います。

分析・科学機器業界は、社会の様々な課題解決に貢献する重要な分野です。JASISを通じて、この業界の発展と社会への貢献がますます加速することを期待しています。

最後になりましたが、ご多忙の中長時間にわたり案内を引き受けて下さいましたJASIS委員会の生野委員長、傍嶋副委員長、杉沢技術委員長、長谷川事務局長の皆様に改めてこの場を借りて厚く御礼申し上げます。

〔農業・食品産業技術総合研究機構 古賀 舞都〕
〔上智大学理工学部 橋本 剛〕